

論文の内容の要旨

氏名：永 井 多賀子

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：Verification of psychological factors related to health-related quality of life in elderly knee osteoarthritis: A prospective cohort study
(高齢変形性膝関節症患者における健康関連 QOL 推移と関連因子の検証)

1. はじめに

本邦における変形性膝関節症患者は 2,530 万人と報告されており、common disease としてリハビリテーション医療が介入する必要性も必然的に増加している。また、加齢に伴う運動器疾患や慢性疾患では長期の治療が必要とされ、医療としての支援は、疾病の治療だけではなく、生活の質（Quality of Life: QOL）が重要となってくる。そこで患者の主観的視点に立脚した健康関連 QOL（Health-related QOL: HRQOL）が注目されるようになった。しかし、高齢変形性膝関節症における健康関連 QOL に関する報告は散見されているにもかかわらず、リハビリテーション介入後の健康関連 QOL 推移について調査研究は限られている。本研究では、高齢変形性膝関節症患者における健康関連 QOL の推移と影響因子について検証することを目的とした。

2. 対象と方法

対象は、2018 年 9 月から 2019 年 5 月の間に変形性膝関節症と診断され、リハビリテーションを施行した 65 歳以上の高齢者 62 例（男性 13 例、女性 49 例、平均年齢 75.4 ± 7.6 歳）を対象とした。治療法は保存的治療を選択しているものに限られ、手術的治療を施行した対象は除外とした。方法は、対象者に対し、健康関連 QOL の尺度である SF-8 (Short Form-8)、手段的日常生活動作 (Instrumental Activities of Daily Living: IADL) の評価として日本語版自己評価表 (Frenchay Activities Index: FAI)、転倒恐怖感の評価として Fall Efficacy Scale (FES)、抑うつ度の評価として老年うつ病スケール短縮版 (Geriatric Depression Scale: GDS) について、リハビリ開始時、介入後 1 ヶ月、3 ヶ月、リハ介入終了後 1 ヶ月に自己記入式質問紙表による調査を行った。さらに、SF-8 から身体的サマリースコア (Physical Component Summary)、精神的サマリースコア (Mental Component Summary) の 2 つのサマリースコアを算出し、各調査項目との関連について検証した。変形性膝関節症の重症度評価は日本整形外科学会膝痛疾患治療成績判定基準 (Japanese Orthopedic Association スコア: JOA スコア)、レントゲン分類 (Kellgren-Lawrence 分類: K-L 分類) を使用した。統計的処理として、各変数間の相関係数を確認し、重回帰分析により SF-8 スコアに影響を与える要因を検討した。

3. 結果

JOA スコア、転倒恐怖感、手段的 ADL はリハビリ開始時から介入後 3 ヶ月時点で有意に改善していた。抑うつ度と精神的サマリースコア及び身体的サマリースコアは有意な改善を認めなかった。各尺度との関連について、身体的サマリースコアは JOA スコアと正の相関を示し、抑うつ度と負の相関を示していた。また精神的サマリースコアにおいても抑うつ度と負の相関を示していた。重回帰分析の結果、健康関連 QOL に影響を及ぼす因子として、身体的サマリースコアはリハ開始前では K-L 分類、リハ開始後 1 ヶ月、3 ヶ月では転倒恐怖感、リハ終了後は抑うつ度が影響因子として抽出された。精神的サマリースコアはリハ開始前では抑うつ度、リハ開始後 1 ヶ月、3 ヶ月およびリハ終了後では転倒恐怖感が影響因子として抽出された。

4. 考察

変形性膝関節症のリハビリテーション介入により運動機能は改善されたが、抑うつ傾向が残存していた。さらに、抑うつ傾向は健康関連 QOL に影響を及ぼしていることが明らかとなった。今後、変形性膝関節症患者が抱える心理社会的因子への介入を検討する必要がある。